

大和川の自然

「お母さん、ヌートリアってどんな動物？」

ヨシトがお母さんと大和川の河川敷を散歩していた時のことだ。大和川の河川敷は、緑の芝生や花壇の花々が美しく、多くの野鳥が訪れる。また、「大和川ふれあい広場」として遊歩道や遊具も整備され、ジョギングを楽しむ人々や家族と一緒に遊ぶ小さな子どもたちの姿が見られる。何より川を渡る風が心地よく、河川敷は多くの人々にとっての憩いの場となっている。

ふと、草むらの前に立ててある看板にヨシトは気付いた。見ると「河川を利用される皆さんへお願い」とある。

ヌートリアに餌をやらなくてください。

◆ヌートリアは特定外来生物に指定されています。

◆堤防などに穴を掘るため、堤防決壊の原因となります。

◆在来生物などを食べ、生態系への影響が懸念されます。

ヌートリアという動物がいることを初めてヨシトは知ったのだった。

「イタチみたいなのじゃなかったかな。」

ヨシトの問いかけに、お母さんは自信なさそうに答えた。

ヨシトは家に帰って調べてみた。ヌートリアはネズミの仲間だ。写真を見るとまるでペットとして飼われている小動物のようだ。餌をあげる人がいるのも何となく分かる気がした。

ヌートリアは南米に生息しており、とても良質な毛皮をもつことから家畜として輸入された。各地で飼育され、食糧難の時代には食用としても重宝されたが、毛皮等の需要の低下とともに養殖場が閉鎖され、放逐された個体が野生化したようである。

農作物への被害だけでなく、水辺にトンネルを掘って巣を作るため、河川の堤防などを決壊させることもあるようだ。また、これまで河川や周辺で育まれてきた動植物を捕食することで、生態系に及ぼす影響も大きい。



ヌートリア



大和川河川敷にある看板



大和川ふれあい広場

そう調べてきて、ヨシトは看板が設置された意味が分かった。ヌートリアを繁殖させないための呼びかけだったのだ。かわいいからという安易な気持ちで餌をやることで、大和川が育んできた自然を壊すことや、周辺で農作物を育てている人への被害はもちろん、堤防で水害から守られている人々の安全まで脅かすことにつながるのだ。

でも……。ヨシトは思った。大和川以外でも、日本の様々なところでヌートリアの問題が起こっているようだ。でも、そもそも人間が連れてきて野生化させてしまったヌートリアである。それを今度は駆除していくというのは、ヌートリアにとってはあまりにも不幸ではないか。奈良公園のシカも、春日山の原生林への食害が問題となっていることを以前聞いたことがある。原生林もシカも、どちらも大切な自然として守る必要がある、そのために私たち人間はどうすべきなのかを考えなければならぬ。

夕飯を食べながら、ヨシトはお母さんに言った。

「ねえ、母さん。今になって、害があるのでヌートリアを駆除するというのは何かかわいそうな気がするよ。大和川の自然やぼくたち人間のためには、ヌートリアが増えると困ることはよく分かる。でも、ヌートリアには罪はないよ。ヌートリアを南米から連れてきた人たち、野生化を止められなかった人たち、そして今ヌートリアと向き合っているぼくたち、そんな全ての人間が生き物や自然に対する責任を考えないといけないよ。」

「そうね。知ってる？お母さんが子どものころの大和川は、生活排水や工場排水なんかでとても汚れていたんだよ。このままではいけないと、大和川の環境を守ろうとする多くの人たちの努力があって、今ではずいぶん水質が改善されたわ。アユやメダカも戻ってきているそうだし、水鳥なんかもね。でもね、大和川は大きな水害があった後に、川幅を広げたりコンクリートで護岸整備をしたりしてそれまでの自然環境が失われたところもたくさんあるわ。」

お母さんは続けて言った。

「昔のままの自然は、今の大和川にはないわ。安全で安心して暮らせる大和川と自然豊かな大和川の両方を目指して、今の大和川が整備されてきたのよ。」



整備された大和川河川敷

自然を守るとはどういうことなんだろう。ヨシトは考えた。守るのは誰のための自然なんだろう。人間は自然とどのように関わっていけばいいんだろうか。

大和川ふれあい広場や生き物たち、そしてヌートリアの姿を思い浮かべながら、これからあるべき大和川の自然とはどのようなものなのかをヨシトは考えはじめた。



○ 生き物や自然に対する人間が負うべき責任とは何でしょう。人間は、自然とどのように関わっていけばよいとあなたは考えますか。

○ 未来の大和川の自然は、どのようなものになればよいとあなたは考えますか。